

- 問1 中世の東アジア情勢を記した歴史的な記録において、日本への外国からの侵攻である「元寇」が引き起こされた背景として、当時のモンゴル帝国の動向を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2017年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. シベリア鉄道を敷設するための労働力を確保するため、周辺の国々を支配下に置こうとした。 | 2. 周辺の国を次々と服属させて領域を拡大していった一環として、日本にも服属を求めた。 | 3. 産業革命による工業製品の輸出先を確保するため、アジア全域の市場を独占しようとした。 | 4. 唐の時代の優れた政治制度を復活させるため、東アジア諸国に律令制の導入を強制した。 |
|---|---|--|---|
- 問2 東大寺南大門の金剛力士像を制作した運慶や快慶らが活躍した時代は、彫刻においても「写実的で力強い」表現が好まれました。このような文化が生まれた背景や特徴について説明したものとして、最も適切なものを選択してください。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|--|--------------------------------------|---|
| 1. 江戸の町人による経済発展を背景に、華やかで豪華な装飾が好まれたため | 2. 武士が政治の実権を握り、彼らの力強さや素朴さを好む気風が反映されたため | 3. 国風文化の影響が強まり、貴族の好む繊細で優美な様式が完成されたため | 4. 遣唐使によってもたらされた唐の進んだ技術が、国際色豊かな表現を生んだため |
|--------------------------------------|--|--------------------------------------|---|
- 問3 元軍の二度目の侵攻（弘安の役）に備えるため、鎌倉幕府が博多湾の海岸沿いに数キロメートルにわたって築かせた、石を積み上げて作られた防壁を何と呼びますか。 (2023年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|----------|---------|-------|
| 1. 石垣 | 2. 万里の長城 | 3. 元寇防壁 | 4. 山城 |
|-------|----------|---------|-------|
- 問4 鎌倉時代に新しく起こった仏教の諸宗派は、それまでの貴族を中心とした旧来の仏教に対し、武士や庶民の間で急速に広まりました。その主な理由として正しいものはどれですか。 (2019年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 複雑な教典の研究や厳しい学問を重視し、知的な階層に訴えたため | 2. 教えが分かりやすく、誰でも実践しやすい修行を説いたため | 3. 山岳にこもる過酷な修行を強いることで、精神の鍛錬を求めたため | 4. 寺院を都のみに建立し、限られた富裕層にのみ救済を説いたため |
|-----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
- 問5 源頼朝が鎌倉幕府を確立していく過程で、全国の土地支配を強めるために実施した政策の背景について述べた文章のうち、正しいものはどれですか。 (2024年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 承久の乱で後鳥羽上皇を破ったのち、西日本の貴族の領地を没収するために守護・地頭の制度を初めて導入した。 | 2. 源義経との対立をきっかけに、朝廷から守護・地頭の設置を認めさせることで、各地の荘園や公領への影響力を確保した。 | 3. 検非違使や押領使といった朝廷古来の役職を幕府の統制下に置くことで、全国の武士を直接支配する仕組みを整えた。 | 4. 蒙古襲来に備えるため、恩賞として与える土地を確保する目的で、全国の荘園に地頭を配置し直した。 |
|--|--|--|---|
- 問6 二度にわたる元寇を退けたにもかかわらず、その後の鎌倉幕府の支配体制が不安定になった背景には、恩賞をめぐる問題がありました。その理由として正しい説明はどれですか。 (2025年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 1. 元との講和条件として、幕府が多額の賠償金を支払うことになり財政が破綻したため | 2. 元寇の混乱に乗じて、北条氏が他の有力御家人の領地をすべて没収したため | 3. 防衛戦であったため敵から奪った土地がなく、戦った武士に十分な恩賞を与えられなかったため | 4. 博多湾に築いた石築地の建設費用を、すべて御家人の自己負担としたため |
|---|---------------------------------------|--|--------------------------------------|
- 問7 13世紀後半に起きたモンゴル帝国の襲来（元寇）において、武士たちは防衛に成功しましたが、その後の鎌倉幕府の支配体制は大きく揺らぐことになりました。その理由として最も適切な説明はどれか、次の中から選びなさい。 (2025年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 防衛のために西国へ赴いた武士たちが、その土地の有力な農民と結びついて、幕府から独立したから。 | 2. 元軍の圧倒的な武力の前に、鎌倉幕府が降伏に近い和睦を結び、多額の賠償金を支払ったから。 | 3. 外国との防衛戦であったため、新たに恩賞として与える土地が不足し、軍役を果たした御家人の不満が高まったから。 | 4. 元寇の混乱に乗じて後醍醐天皇が建武の新政を開始し、幕府から政治の実権を直ちに取り戻したから。 |
|---|--|--|---|
- 問8 鎌倉時代に栄西が伝えた「臨済宗」や、道元が伝えた「曹洞宗」といった禅宗が、当時の武士たちの間で広く受け入れられた理由として最も適切な説明はどれですか。 (2021年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 厳しい修行や座禅を通じて、自分自身の精神を鍛え上げる教えが、武士の気風に適していたから。 | 2. 法華經の教えを信じることで、国家の安泰と個人の救済を同時に実現できると考えたから。 | 3. 各地を巡りながら踊りを通じて仏を供養する形式が、領地を移動する武士の生活に合っていたから。 | 4. 「南無阿弥陀仏」と唱えるだけで誰もが救われるという教えが、文字の読めない武士にとって容易だったから。 |
|---|--|--|---|
- 問9 鎌倉時代中期以降、多くの御家人が経済的に困窮した理由として、当時の相続の仕組みに関連した説明として正しいものを次の中から選びなさい。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 幕府が御家人の領地を強制的に回収し、直轄領として再編する政策を強行したため。 | 2. 惣領が全ての領地を一括管理する制度に変わったことで、一族内での年貢の分配が滞ったため。 | 3. 長男のみが全ての領地を継承する単独相続が徹底され、次男以下の不満が武力衝突に発展したため。 | 4. 一族の子弟に領地を分けて継承させる分割相続が繰り返され、一人当たりの領地が細分化されたため。 |
|---|--|--|---|
- 問10 マルコ・ポーロが著した『世界の記述（東方見聞録）』の中で、日本は「黄金の国ジパング」として紹介されています。この記述が後の歴史に与えた影響として、最も適切な説明を選んでください。 (2026年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. モンゴル帝国が日本への軍事侵攻（元寇）を決定する、最大の判断材料となった。 | 2. 東洋の富に憧れたコロンブスが、西回りの航路でアジアを目指す動機の一つとなった。 | 3. 日本との直接的な交易を求めて、スペインが種子島に鉄砲を伝える直接のきっかけとなった。 | 4. ヨーロッパ諸国がキリスト教を広めるために、日本を最初の布教地に選ぶ理由となった。 |
|--|--|---|---|
- 問11 12世紀末の日本において、源頼朝が朝廷から許可を得て全国に設置した役職のうち、主に「国」ごとに置かれ、国内の軍事や警察、御家人の統制などの役割を担った役職の名前として正しいものを答えなさい。 (2026年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 守護 | 2. 郡司 | 3. 地頭 | 4. 国司 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問12 北条泰時が「御成敗式目」を制定した歴史的な背景や目的を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 承久の乱の後、地頭と領主の間で増えていた土地をめぐる紛争に対し、公平な裁判の基準を示すため。 | 2. 徳川氏による幕藩体制を維持するために、天皇や公家の行動を厳しく制限しようとしたため。 | 3. 朝廷が定めた律令制度を完全に廃止し、全国のすべての階層に適用される新しい統一法を作るため。 | 4. 蒙古襲来に備えて、御家人たちの団結を強めるために軍役の義務を強化しようとしたため。 |
|---|---|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 周辺の国を次々と服属させて領域を拡大していった一環として、日本にも服属を求めた。	モンゴル帝国は周辺諸国に次々と使者を送り、服属（自国の支配下に入ること）を迫ることで急速に領域を拡大させていきました。当時の日本の鎌倉幕府がこの要求を拒否したことが、大規模な武力衝突へとつながりました。選択肢にある産業革命やシベリア鉄道は、より後世の出来事であるため、時代背景が異なります。
問2	答え 2 武士が政治の実権を握り、彼らの力強さや素朴さを好む気風が反映されたため	鎌倉文化は、新興勢力である武士の気風や、新仏教の普及による民衆のエネルギーを反映しています。そのため、平安時代の貴族的な「繊細・優美」なスタイルとは異なり、現実をありのままに捉えようとする「写实的」な表現や「力強さ」が重視されました。運慶らの彫刻は、その精神を象徴する代表的な事例です。
問3	答え 3 元寇防壁	一度目の侵攻である文永の役の後、鎌倉幕府は次の襲来を想定して博多湾の海岸に「元寇防壁（石築地）」と呼ばれる石造りの防壁を築きました。これにより、二度目の弘安の役では元軍の上陸を阻止し、防衛において大きな役割を果たしました。
問4	答え 2 教えが分かりやすく、誰でも実践しやすい修行を説いたため	鎌倉時代以前の仏教が教典の研究や複雑な儀式を重んじる貴族中心のものであったのに対し、鎌倉新仏教の開祖たちは「念仏を唱える」や「座禅を組む」といった非常に簡潔で実践しやすい教えを説きました。この「信仰のしやすさ」が、日々を懸命に生きる武士や、教育を受ける機会の少なかった庶民の心に深く響き、広まる大きな要因となりました。
問5	答え 2 源義経との対立をきっかけに、朝廷から守護・地頭の設置を認めさせることで、各地の荘園や公領への影響力を確保した。	鎌倉幕府が全国的な支配権を確立する大きな転換点は、1185年の守護・地頭の設置にあります。これは源義経を捕縛するという名目で朝廷に認めさせたものであり、それまで貴族や寺社が所有していた「荘園」や、国司が管理していた「公領」に対して、幕府が任命した武士（御家人）が地頭として入り込むことを可能にしました。検非違使や押領使は平安時代からの官職であり、これとは区別する必要があります。
問6	答え 3 防衛戦であったため敵から奪った土地がなく、戦った武士に十分な恩賞を与えられなかったため	鎌倉幕府の基盤は、将軍が領地を保証する「御恩」と、武士が軍役を果たす「奉公」という主従関係にありました。通常の国内の戦いであれば、敗れた側から没収した土地を恩賞として分配できましたが、元寇は外国の侵略を防ぐ防衛戦であったため、新たに与える土地が不足していました。自費で軍役を果たしたにもかかわらず十分な報いを受けられなかった武士たちの不満は、幕府への不信感につながり、後の幕府滅亡の遠因となりました。
問7	答え 3 外国との防衛戦であったため、新たに恩賞として与える土地が不足し、軍役を果たした御家人の不満が高まったから。	鎌倉幕府の主従関係は、将軍が領地を保証する「御恩」と、武士が軍役を果たす「奉公」の交換で成り立っていました。しかし、元寇は侵略を防ぐ防衛戦争であり、勝利しても敵から奪った土地がなかったため、幕府は命がけで戦った武士（御家人）に十分な恩賞を与えることができませんでした。これにより武士たちは困窮し、幕府への不信感を強め、後の幕府滅亡の遠因となりました。承久の乱や建武の新政は時期や背景が異なる出来事です。
問8	答え 1 厳しい修行や座禅を通じて、自分自身の精神を鍛え上げる教えが、武士の気風に適していたから。	禅宗は、座禅という厳しい自己規律を通じて悟りを目指す「自力」の教えであったため、命がけで戦場に赴き、精神の集中や自己の鍛錬を必要としていた武士の価値観と合致しました。そのため、鎌倉幕府の有力者からも厚く保護されました。選択肢にある「南無阿弥陀仏」は浄土系の宗派、「法華経による国家安泰」は日蓮宗、「踊り」は時宗（一遍）の特徴であり、禅宗の特色とは異なります。
問9	答え 4 一族の子弟に領地を分けて継承させる分割相続が繰り返され、一人当たりの領地が細分化されたため。	鎌倉時代の武士社会では、親の所領を複数の子に分けて譲る分割相続が一般的でした。しかし、代を重ねるごとに御家人一人が所有する領地は小さくなり、収入が減少しました。これに元寇（モンゴル襲来）の軍役負担や貨幣経済への対応が重なり、多くの御家人が土地を質に入れたり売却したりして生活に困窮することとなりました。
問10	答え 2 東洋の富に憧れたコロンブスが、西回りの航路でアジアを目指す動機の一つとなった。	「屋根や床が黄金でできている」という誇張を含んだ日本の紹介は、ヨーロッパの人々の探検欲を強く刺激しました。コロンブスはこの記述を信じ、大西洋を渡れば黄金の国ジパングや中国に到達できると考え、航海に出たことが知られています。
問11	答え 1 守護	源頼朝は、弟の義経を捕らえることを名目に、朝廷から「守護」と「地頭」を設置する権利を認められました。守護は令制国（国）ごとに1人ずつ置かれ、主に大犯三箇条と呼ばれる軍事・警察権を行使しました。これに対し、地頭は荘園や公領ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収を担いました。国司や郡司は、律令制度に基づいて朝廷から任命された地方官であり、幕府が設置したものではありません。
問12	答え 1 承久の乱の後、地頭と領主の間で増えていた土地をめぐる紛争に対し、公平な裁判の基準を示すため。	承久の乱の結果、幕府の支配力が西日本にも及びましたが、それに伴い地頭と貴族などの荘園領主との間で土地トラブルが多発しました。執権の北条泰時は、武士の慣習に基づいた明確な判断基準を設けることで、御家人たちに公平な裁判を保証し、幕府への信頼を高めることを狙いました。